

「歯科医療安全の視点から考える
良質補綴のためのアナログとデジタルのポイント」

佐野 隆一

補綴再製をいかになくすか？ というのをテーマに活動をしてきました。2018年に出版された拙著(『補綴再製をなくすための臨床テクニック 24』)は第3刷となり、2023年9月には第2弾となる書籍(『質の高い補綴のための核心 24』)を上梓することとなりました。「日常臨床のトラブルをなくしたい」「良質な歯科医療を提供したい」というのは多くの歯科医師、歯科技工士の方々が思っていることなのだあらためて感じています。

近年デジタルデンティストリーも普及してきました。ただ、より良い補綴物を提供するためには、チェアサイドとラボサイドの連携はあった方がいい、というのはこれまでと同じです。チェアサイドでもデジタル機器を導入することで補綴装置は作れるようになってきましたが、ラボサイドが携わると何が違うのか、ラボサイドと連携をとるには何がポイントになるのかをお互いに理解していると、補綴のクオリティはこれまで以上によくなるでしょう。

それと同時に、歯科医療に求められる安全性というものも重要となっています。これまでは、感染予防としての印象や模型の消毒など、私たち医療従事者に対する安全性が多く語られてきましたが、これからは、その補綴装置が患者さんに与える影響、安全性なども考慮する必要があるでしょう。これは単に生体親和性の高い材料を使う、といったことだけでなく、医療事故や医療紛争などにも補綴装置製作者としてどう関わるか、ということではないでしょうか。

時代の変化に合わせてどう対応していけばいいのか？ 私自身の技術やコミュニケーションの考え方、具体的な取り組みなどを一つの事例としてお伝えしていくことで、歯科技工のこれからを一緒に考えていければ幸いです。